



愛国・幸福駅・恋人の聖地

呼び込め純愛

ほかの資源と結びつき重要

「11ヶ離れた愛国と幸福をつなぐものがあまりない。空港に通じる裏道に、ばん馬の馬車を走らせてはどうか」

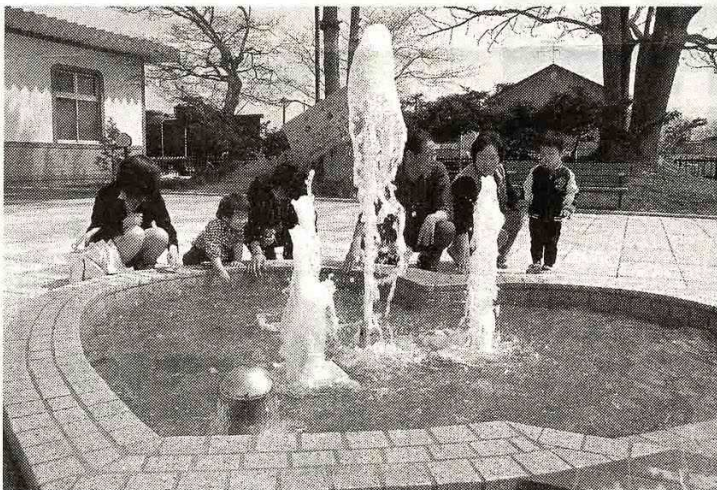
ばん馬馬車提案

とちち帯広デザイン振興協議会（金澤和彦会長）は2日、愛国・幸福駅を視察した。視察後の意見交換でさまざまなアイデアが出された。両駅にちなみ「ロマンチックロード」として運行はん馬のPRもかねる案だ。金澤会長は、恋人の聖地認定にちなんだ土産品の開発をはじめ、モノや形があるものにこだわらず地域活性化のランドデザインづくりに取り組むたいと意欲をみせる。

市は恋人の聖地認定に伴い、NP O地域活性化支援センター（静岡）のホームページにデートプランを発表した。愛国駅から出発して愛国神社、昼食に豚丼を食べて幸福神社、幸福駅をめぐる提案内容。さらに、両駅を訪れた人の中から抽選でクリスマスカードを送付する「幸福メール」や幸福駅周辺のシラカバ並木、帯広のスイーツなどの観光情報も発信している。

愛国駅では「広場のハート形噴水に愛の成就を願ってさい銭を投げる観光客が依然続いている」（愛国ふれあい広場建設期成会の堀内勉会長）。神奈川県鎌倉市では、境内のわき水で硬貨を洗えば御利益があるという神社（通称銭洗弁天）もあ

新たな連携と展開



り、活用次第では観光資源にもなると提案した。茨城から幸福駅を訪れた20代の女性観光客は「夜の星雫がきれいなので織り姫と彦星で有名な七夕にイベントや花火大会があったらいい」

地域文化発信を

公共事業の減少、農業自由化の活性化には観光振興で交流人口の増加が不可欠。帯広畜産大学講師の三ツ村光彦氏は「観光の『光』には文化という意味もある。だから観光はその地域の文化を見ることであり、地域は胸を張って文化を発信すべきだ」と強調している。

（この企画は中津川甫が担当しました）
愛国駅にあるハート形の噴水。地域住民や観光客から親しまれている

豊富な食、イベント、スポット生かす